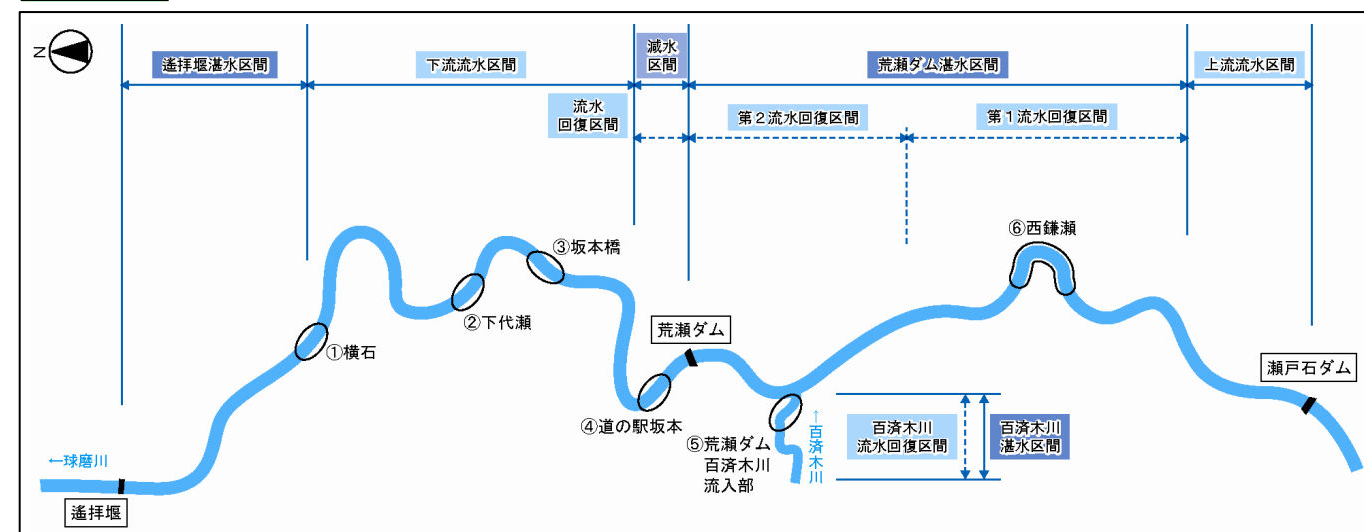


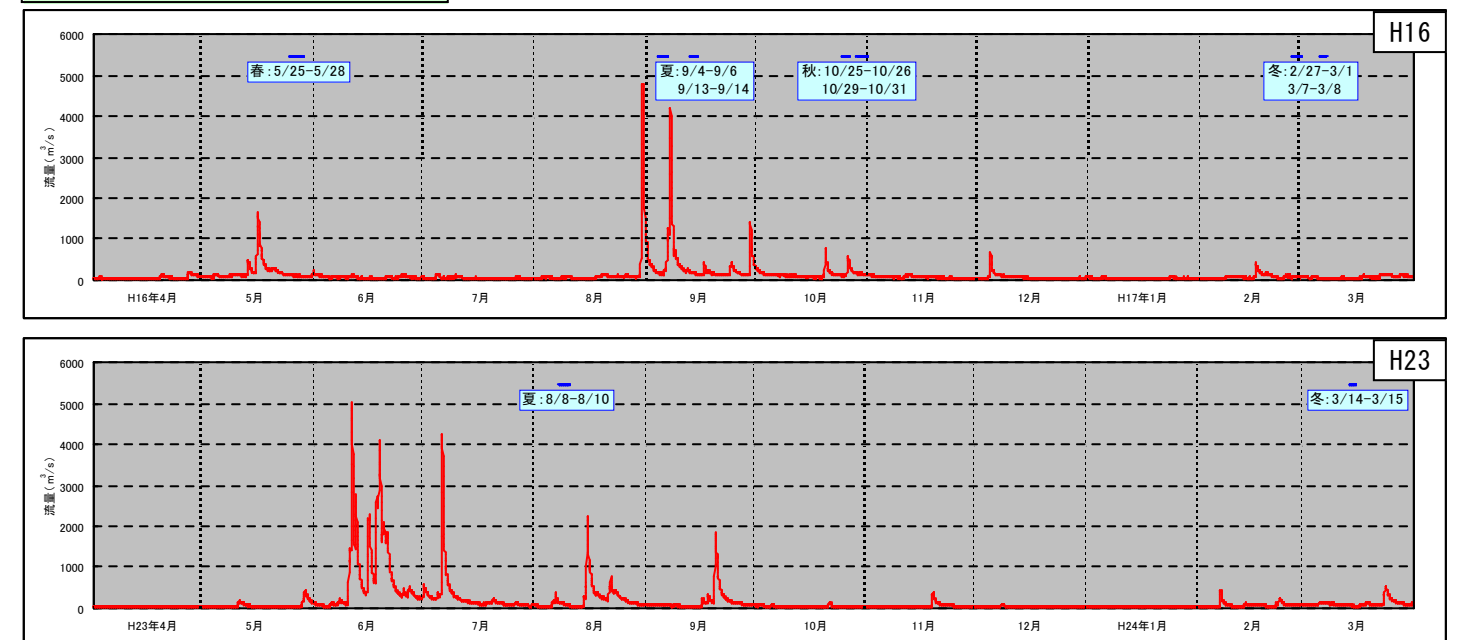
1) 付着藻類

評価項目	視点	評価概要
A これまでの変化状況	付着藻類の細胞数密度	春季には藍藻綱が優占する。冬季については、藍藻綱と珪藻綱が優占するが、その順序は年度によって変化している。 参考として、夏季は春季と、秋季は冬季と似た傾向を示している。また、夏季は他の季節と比べて高く、特に百済木川流入部で顕著であった。
	付着物量	有機物量の密度は 2.3～6.3g/m ² の範囲にあり、地点間の差は小さかった。 有機物量の比率は 9～55% の範囲にあり、百済木川流入部及び西鎌瀬で低い傾向にある。 参考として、夏季には、百済木川及び西鎌瀬で有機物量が冬季の 4 倍程度もあり高かった。
	クロフィル a 量及びフェオフィチン量	クロフィル a 量の密度は 4～23 mg/m ² の範囲にあり、道の駅坂本、百済木川流入部、西鎌瀬で低い傾向にある。 クロフィル a 量の比率は 75～84% の範囲にあり、地点間の差は小さかった。 参考として、夏季には全地点で冬季よりもクロフィル a 量が高かったが、特に百済木川及び西鎌瀬で顕著であった。
B ゲート開放前後の変化状況	付着藻類の細胞数密度	(冬季の分析結果、春季のサンプル採取・分析結果により評価予定)
	付着物量	
	クロフィル a 量及びフェオフィチン量	

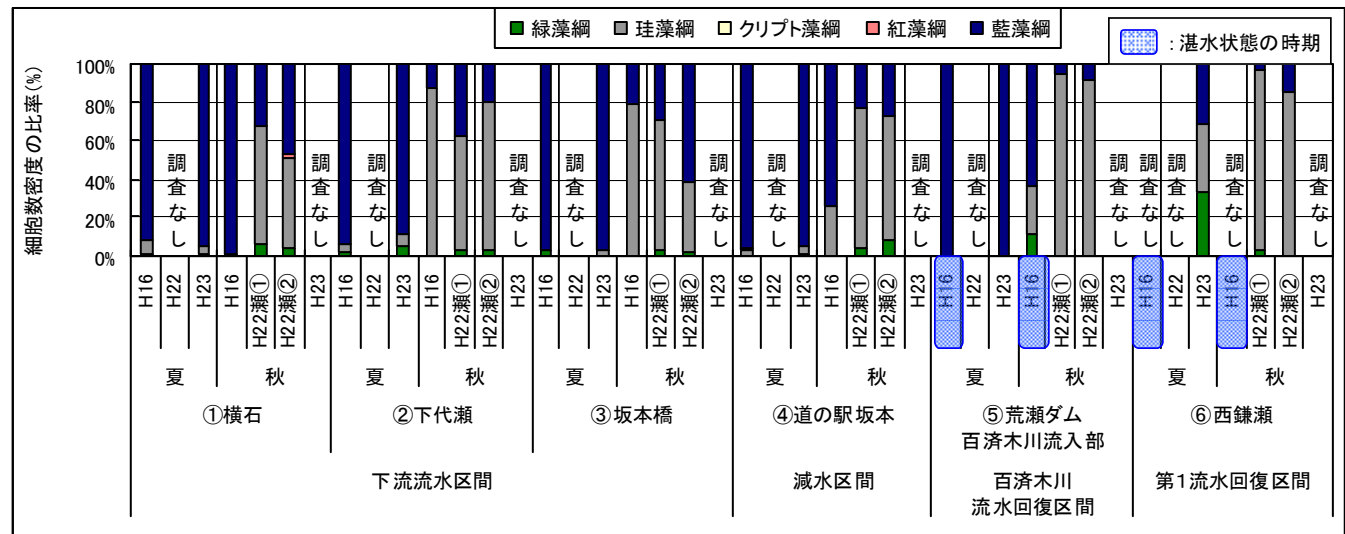
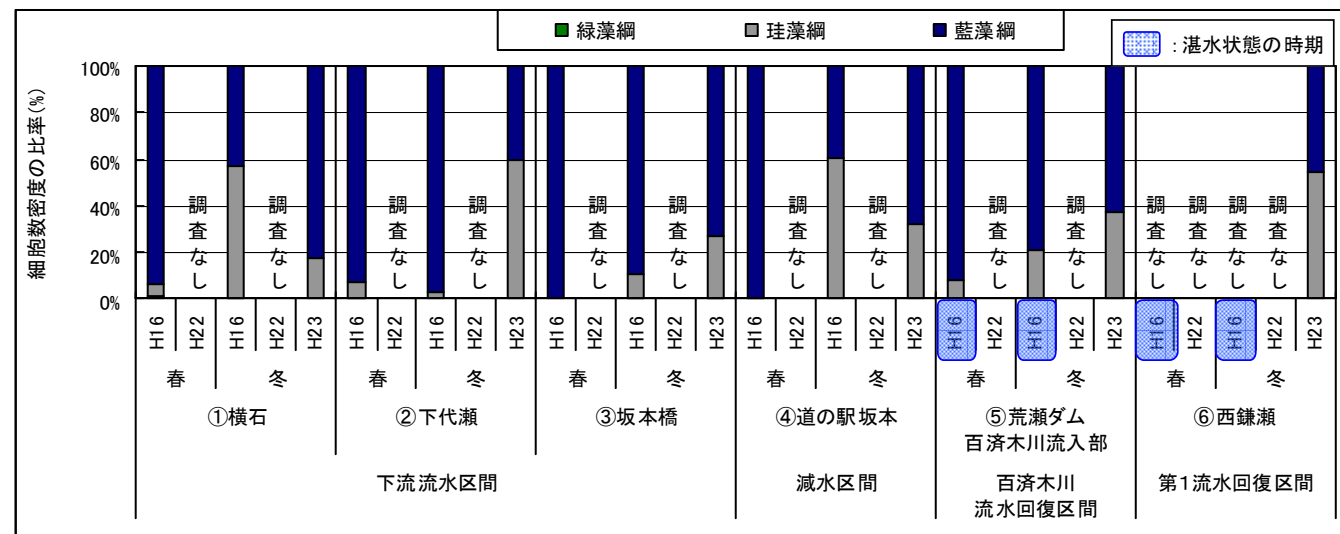
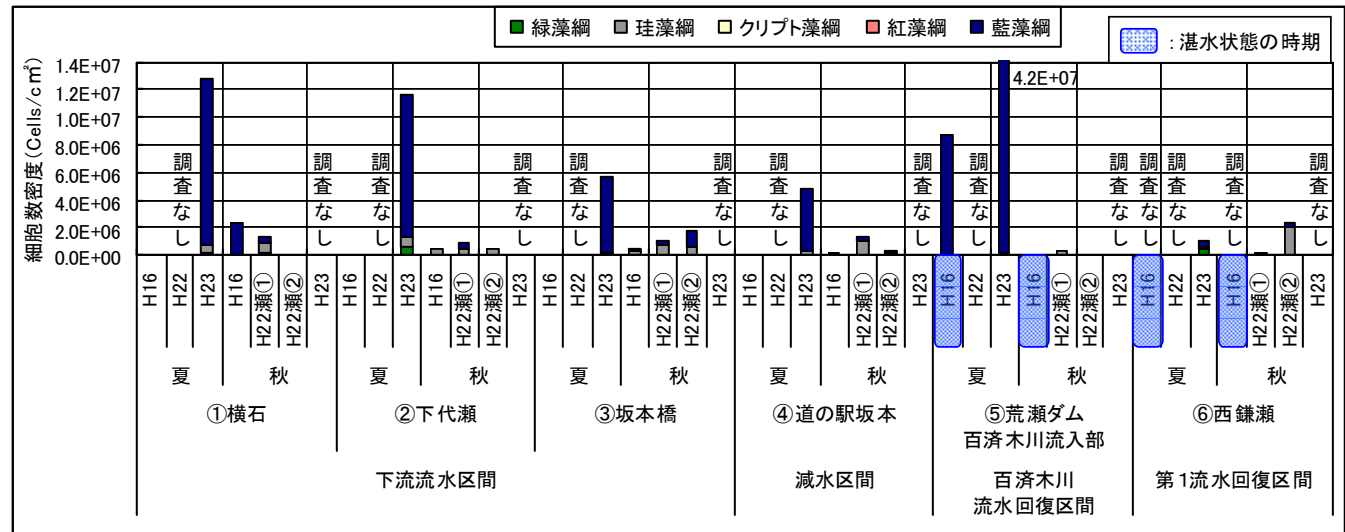
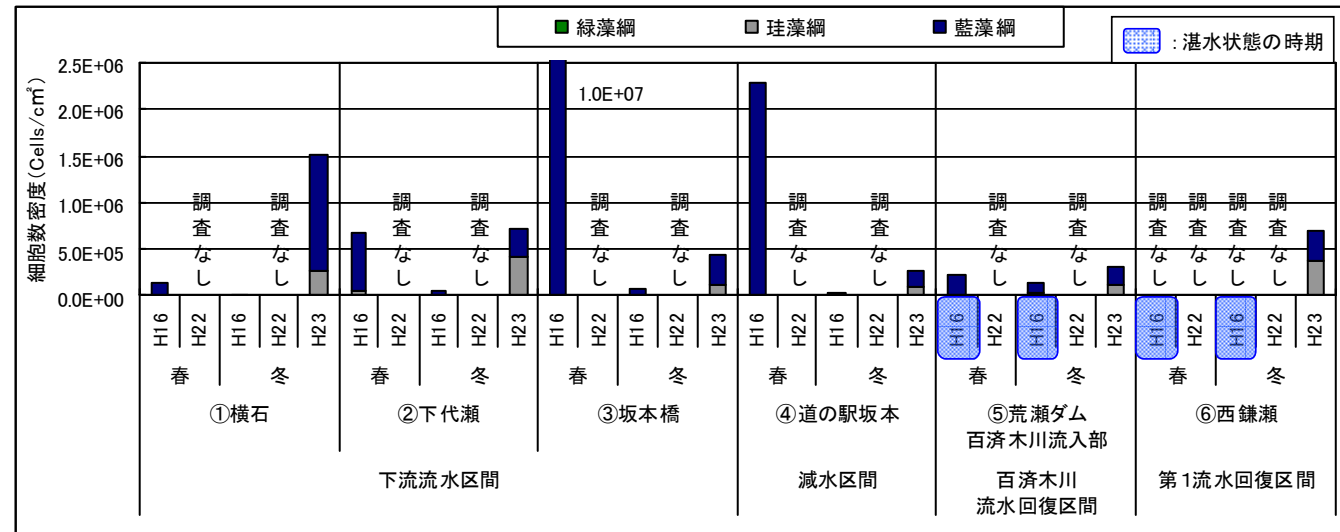
調査地点



調査時期における荒瀬ダム流量



付着藻類の細胞数密度



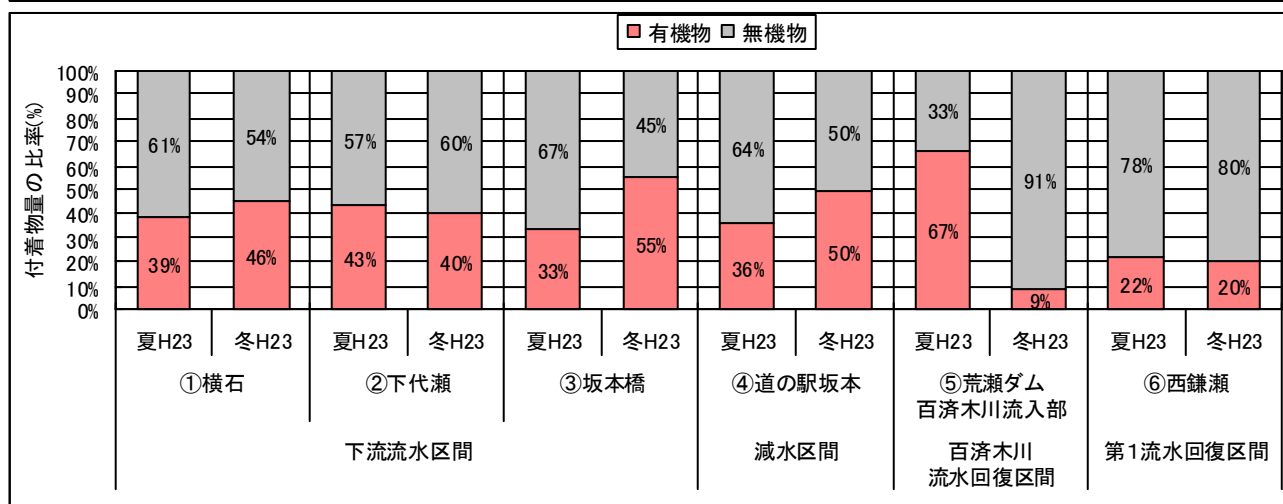
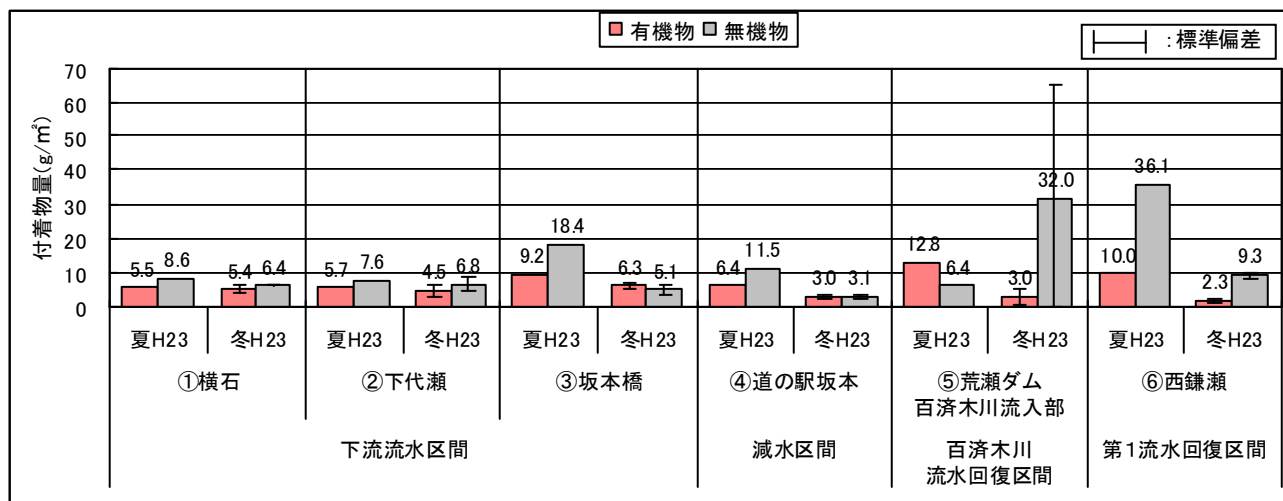
【用語の解説】

- ・ **藍藻綱**：細胞の中にははっきりとした核のない原核生物であり、群体を形成し黒っぽく見えることが多い。流速が速く、石礫上に堆積物が少なく、アユによる摂食が盛んな箇所では優占していることが多い。代表種として、*Homoeothrix janthina*（ホモエオスリックス・ヤンチナ）が挙げられる。
- ・ **珪藻綱**：ガラスの成分である珪酸でできた殻を持ち、黄褐色に見えるのが特徴である。流速が比較的遅く、古い石の付着物が残る箇所で多い傾向にある。代表例として、*Gomphonema* 属（クサビケイソウ属）が挙げられる。
- ・ **緑藻綱**：細胞中に緑色の色素を多く含むことから、色鮮やかな緑色に見えるのが特徴である。この仲間の中には、大型糸状緑藻となって繁茂し、アユの餌となる藍藻や珪藻が付着する石を被ってしまうカワシオグサがある。
- ・ **紅藻綱**：様々な色素を含むことから、全体として赤っぽく見えるのが特徴である。球磨川・川辺川合流点付近には、チスジノリ、オキチモズク、カワモズクなど、希少な淡水産紅藻類が生育している。
- ・ **クリプト藻綱**：鞭毛により遊泳する単細胞藻類で、優占するものではないが、淡水及び海水に広く分布する。

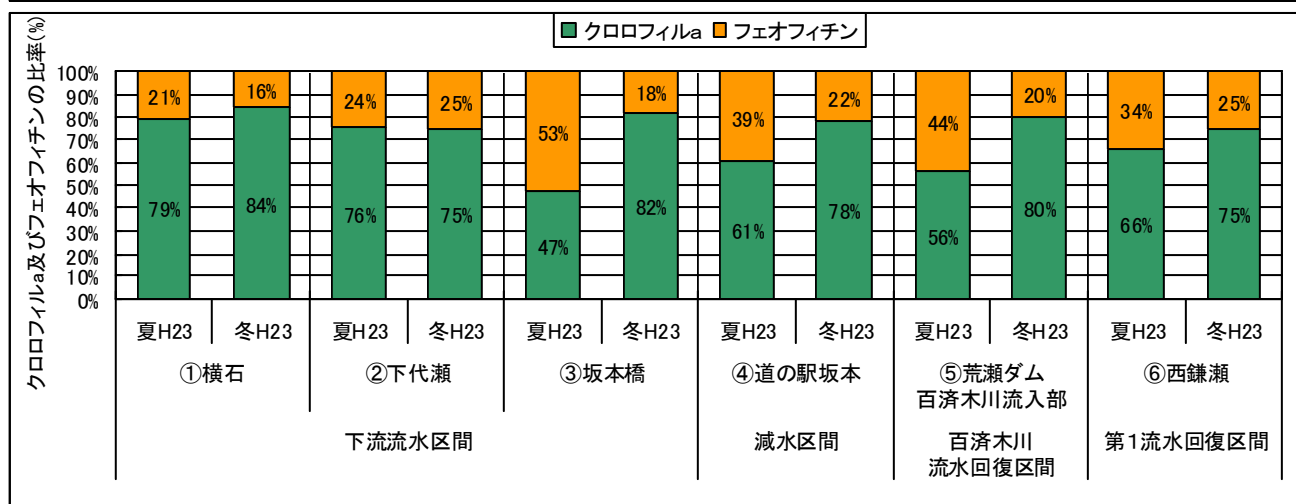
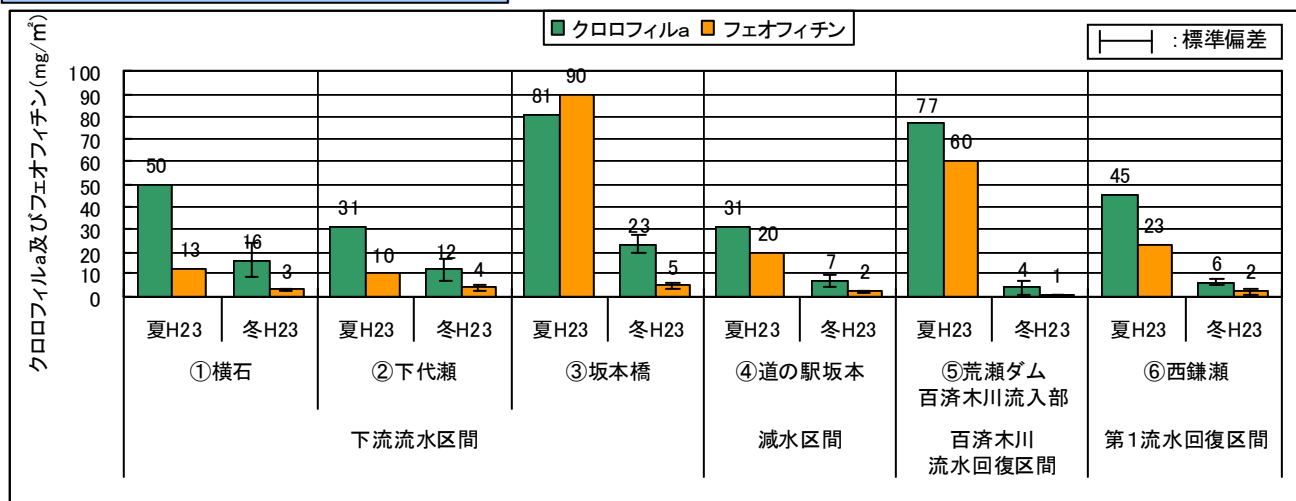
【コメント】

- ・ **これまでの変化状況**：
春季には藍藻綱が優占。冬季は、藍藻綱と珪藻綱が優占するが、その順序は年度によって変化している。
参考として、夏季は春季と、秋季は冬季と似た傾向を示している。また、夏季は他の季節と比べて高く、特に百済木川流入部で顕著であった。
- ・ **ゲート開放前後の変化状況**：
（冬季の分析結果、春季のサンプル採取・分析結果により評価予定）

付着藻類の付着量



付着藻類のクロロフィルa量及びフェオフィチン量



【コメント(付着量)】

・これまでの変化状況：

有機物量の密度は 2.3～6.3g/m² の範囲にあり、地点間の差は小さかった。

有機物量の比率は 9～55% の範囲にある。百済木川流入部で低い傾向にあるが、非出水期で石礫上に土砂が堆積し、それが元々流量の少ない流入支川でフラッシュされない状態にあったためと考えられる。

参考として、夏季の有機物量の密度は 5.5～12.0g/m² の範囲にあり、全地点で冬季よりも高かった。

【コメント(クロロフィルa量及びフェオフィチン量)】

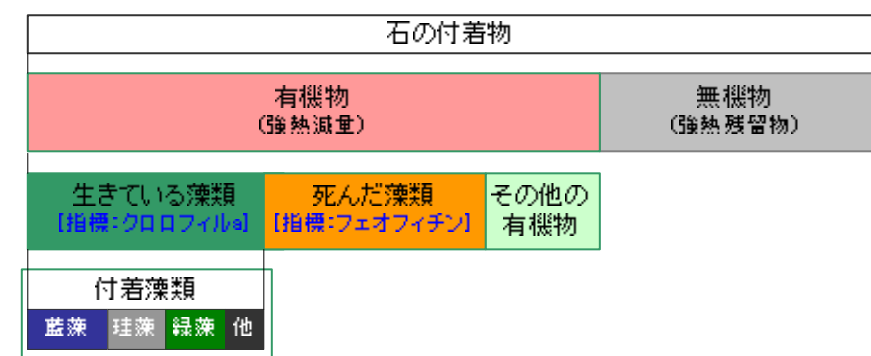
・これまでの変化状況：

クロロフィルa量の密度は 4～23 mg/m² の範囲にある。百済木川流入部で低い傾向にあるが、非出水期で石礫上に土砂が堆積し、それが元々流量の少ない流入支川でフラッシュされない状態にあったためと考えられる。

クロロフィルa量の比率は 75～84% の範囲にあり、地点間の差は小さかった。

参考として、夏季のクロロフィルa量も全地点で冬季よりも高かった。

【参考：石の付着物】



	水生動物の餌としての特徴	調査項目
有機物	アユ等の藻食魚や刈取食の底生動物等の餌を一部含む	強熱減量
無機物	シルトや粘土等から構成され、餌とならない	強熱残留物量
生きている藻類	栄養価の高い餌の量を示す	クロロフィルa
死んだ藻類	栄養価の低い餌の量を示す	フェオフィチン
その他の有機物	主な餌とはならない	—
付着藻類	餌となる付着藻類の種別の内訳を示す	種別の細胞数密度